

第1学年 国語科 学習案内

教科の目標

◎中学校の国語科では次のことを目標としています。

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い
言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

◎中学3年間の国語科では…

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目

観点別評価の項目		評価の観点	評価の方法
知識・技能		文字や語句についての知識や技能が身についている。	- 漢字の小テスト・文法・古典 - 定期テストの言語事項・古典問題とその取り組み - 書写等
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	論路の展開などに注意して聞くことができる。話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。互いの立場や考えを尊重しながら、話し合うことができる。	- 授業中の発言や聞き取り - 話し合いや発表 - 聞き取りテスト等
	書くこと	わかりやすく伝わるように文章の構成や展開を工夫することができる。表現の工夫とその効果をふまえて文章を書くことができる。	- ノートやワークシートへの記入 - 詩・作文・感想文等 - 定期テストの記述問題等とその取り組み
	読むこと	文章を比較して読み、構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことを伝え合ったりできる。文章を読み知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	- ノートやワークシートの内容 - 音読・朗読・暗唱 - 定期テストの読解問題等とその取り組み
主体的に学習に取り組む態度		授業に意欲的に参加し、豊かな言語感覚を身につけようとしている。	- 授業への積極的な参加 - 提出物 - 国語を学ぼうとする姿勢等

第1学年 国語科 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ・ 5	言葉とは何か	・日常使っている言葉の役割について考え、国語学習への意識を高める。
		ふしぎ	・文脈の中における語句の意味を的確に捉え、表現上の工夫に注意して読む。
		桜蝶	・文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する。
		聞くということ	・文章の構成について基本的な知識を得て、意識して文章を読み解く。
	6	四季のたより 春	・日本の伝統的な言語文化について、興味をもつ。
		自分の脳を知っていますか	・接続する言葉の構成や展開との対応関係について、自分の考えをもつ。
		内容を整理して説明する	・日常生活の中から課題を決め、材料を集め、自分の思いや考えをまとめる。
		言葉の小窓1	・音声のはたらきや仕組みについて関心をもち、理解を深める。
	7	漢字の広場1	・漢字に興味をもち、その特徴について理解する。
		お気に入りの一品を紹介する	・日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の思いや考えをまとめる。
		楷書と仮名を調和させて書こう	・楷書に調和する仮名の筆使い、漢字と仮名の大きさや行の中心を理解する。
		写真で「事実」を表現する	・写真と言葉を組み合わせることの効果について考える。
		根拠を明確にして意見文を書く	・伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。
		文法の小窓1	・言葉の単位を理解する。
		ベンチ	・場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てる。
		四季のたより 夏	・日本の伝統的な言語文化について、興味をもつ。
2 学 期	8 ・ 9	河童と蛙	・場面と登場人物の対応を捉えて読む。
		蜘蛛の糸	・近代の小説や物語を探し、作品の紹介をする。
		すべては編集されている	・問いとその答えを見つけていく展開をとらえて読む。
		材料を整理して案内文を書く	・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法などを確かめてわかりやすい文章にする
		漢字の広場2	・漢字に興味をもち、それについての知識を深める。
		言葉の小窓2	・日本語について興味をもち、その特徴について理解する。
		古典の扉を開く	・古典の作品や、歴史的仮名遣いについて知る。
	10	物語の始まり	・古文の歴史的仮名遣いに慣れ、『竹取物語』の世界にふれる。
		オツベルと象	・語り手と登場人物の関係に注意して、構成や展開、表現の特徴を捉える。
		文法の小窓2	・文の成分の役割について理解する。
		行書で書こう	・行書の特徴について正しく理解し、字形を整えて書く。
	11	四季のたより 秋	・日本の伝統的な言語文化について、興味をもつ。
		森には魔法つかいがいる	・問いとその答えを見つけていく展開をとらえて読む。
		持続可能な未来を創るために	・持続可能な社会の実現に向けて課題を共有し、行動する。
	12	調べた内容を聞く	・日常生活の中から課題を決め、材料を集め、自分の思いや考えをまとめる。
		意見文を読み合う	・題材のとらえ方や根拠の明確さについて、意見を述べ合う。
		漢字の広場3	・漢字に興味をもち、それについての知識を深める
		書き初めを書こう	・文字の大きさや字間・行の中心などを理解して、配列よく書く。
3 学 期	1	言葉がつながく世界遺産	・筆者の問題提起と向き合い、自分のものの見方や考え方を広げる。
		故事成語	・訓読の仕方を知り、漢文特有のリズムを味わう。故事成語について調べ、理解する。
		読み手を意識して報告文を整える	・伝える相手や目的を明確にして、配列や用具を理解する
		四季のたより 冬	・日本の伝統的な言語文化について、興味をもつ。
	2	四季の詩	・表現にこめられたものの見方、考え方を捉える。
		文法の小窓3	・単語の分類の基準について理解する。
		漢字の広場4	・漢字に興味をもち、それについての知識を深める。
		少年の日の思い出	・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げる。
	3	子どもの権利	・論理の構成や展開に着目して筆者の主張を読む。
		発言を結び付けて話し合う	・日常生活の中から課題を決め、材料を集め、自分の思いや考えをまとめる。
		漫画で「物語」を表現する	・漫画の中の言葉と絵との関係をとらえ、読み手に対する効果を考える。

◎学習計画は、実態に応じて変更になることがあります。

第1学年 社会科 学習案内

教科の目標

◎中学校の社会科では次のことを目標としています。

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

◎社会科の内容

地理的分野	歴史的分野
- 世界や日本の地理的認識を深めるために、基礎となる知識や調べ方、学び方を身につけます。 - 資料を活用する力、地理的な見方や考え方を伸ばす学習を中心に行い、学び方を学ぶ学習が充実できるようにします。	- 歴史上の出来事について事項を厳選し、時代間のつながりを意識して、我が国の歴史の大きな流れを理解できるようにします。 - 学び方や調べ方を身につけて多面的・多角的な見方や考え方ができるような学習にします。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
社会的な 知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 定期テスト - さまざまな提出物の内容
社会的な 思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて、選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	- 定期テスト - さまざまな提出物
主体的に 学習に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	- 定期テスト - さまざまな提出物

第1学年 社会科 学習計画

期	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	- 歴史をとらえる見方・考え方 - 世界の姿	- 歴史について深く学習するための見方・考え方を知る。 - 地球儀や世界地図を利用して大陸や海洋の位置がわかる。 - 緯度や経度を使って細やかな位置関係が捉えられる。 - おおまかな世界のメンタルマップを描くことができる。 - 世界の国々や地域の位置や領域について地図や地球儀、緯度、経度を活用してさまざまな面からとらえることができる。
	5	日本の姿	- 地球儀や世界地図の上で、日本の位置を周辺の国や海洋などとの位置関係で示すことができる。 - 日本の領域の特色や周辺の国との関わりを知る。 - おおまかな日本のメンタルマップを描くことができる。
	6	- 人々の生活と環境 - 身近な地域の歴史	- 主題図を読み取り、特徴をつかむことができる。 - 気候区分や気温と降水量のグラフの読み取り方をつかむ。 - 地域の風景や景観、人々の暮らしや衣食住などを写した写真の読み取り方をつかむ。 - 自然条件や社会条件を通して、世界の人々の生活の様子や変容を知る。 - 歴史の流れをおおまかにつかむことができる。 - 時代名、世紀の数え方など、年表を利用する上で必要な知識を身につけることができる。
	7	- 世界の古代文明と宗教の起こり - 日本列島の誕生と大陸との交流	- 国が形作られていったようすがわかる。 - 古代文明のあらましをつかみ、宗教の起こり、文化の形成の流れをつかむ。
2 学期	8 9	古代国家の歩みと東アジア世界	- 古代の国家形成のあらましを、東アジアの国家形成の動きと関連付けて理解する。 - 日本独自の文化に触れ、文化財に対する関心を持つ。
	10 11 12 1	世界の諸地域	- 様々な地域の地域的特色をとらえる視点や方法を身につける。 - 地図や統計、写真などを適切に活用するとともに、それらを組み合わせながら、地域的特色を追究・考察し、その結果を適切にまとめ表現する。
3 学期	2 3	- 武士の政権と成立 - ユーラシアの動きと武士の政治の展開	- 武士の成長から武家政権の成立とその後の武家社会の展開のようすについて理解する。 - 都市や農村に自治的な組織が生まれたことや武士や民衆の活力を背景に新しい文化が形成されたようすがわかる。

第1学年 数学科 学習案内

教科の目標

◎中学校の数学科では次のことを目標としています。

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

◎これらの内容を具体的に4つに分けると…

A. 数と式

(正の数と負の数・文字と式・一次方程式)

- 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。
- 文字を用いることの意義や方程式の意味を理解するとともに数量などの関係や法則を一般的にかつ簡潔に表現し、処理できるようにする。

C. 数量関係 (比例、反比例)

- 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を培う。

B. 図形

(基本的な作図と平面図形・空間図形と図形の計量)

- 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を培う。

D. 資料の活用

- 資料を目的に応じて収集して表やグラフに整理し、資料の傾向を読み取り表現する力を培う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
数学的な知識・技能	知識及び技能の習得状況について評価します。また、それらに関連付けたり活用する中で概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。	I 授業態度 授業には集中して取り組みましょう。忘れ物なども厳禁です。 II 発表 解いた問題の答えや考え方を、みんなの前で積極的に発表してください。 III 問題集・ノート 必要に応じ提出してもらいます。提出期限を守りましょう。 IV 宿題・テスト より理解を深めるために宿題を出します。また、理解度を知るために定期的にテストを行います。
数学的な思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかどうかを評価します。	
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自分の学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。	

第1学年 数学科 学習計画			
学年	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	6	正の数・負の数 ・正負の数 ・加法と減法 ・乗法と除法 ・素因数分解 ・課題学習	小学校で学習した数に加えて、新しく負の数を含んだ計算を学んでいきます。 ・正負の数の見方や考え方を学び、生活の中にある数の表し方などを理解していきます。 ・正負の数の加法(たし算)と減法(ひき算)、乗法(かけ算)と除法(わり算)の計算ができるようにします。 ・正負の数の四則の計算ができるようにします。
	7	文字の式 ・文字を使った式 ・文字式の計算	数の代わり a , x などの文字を使って、いろいろな数量を表したり、文字を使った計算を学習します。 ・いろいろな数量を文字や数字を使って表せるようにします。 ・文字を使って表すときの約束や決まりを学習します。 ・文字式の加法や減法、乗法や除法の計算ができるようにします。
2 学 期	8	方程式 ・方程式 ・一次方程式の利用 ・課題学習	数量を文字式で表し、2つの数量の関係を式(等式)で表して解くことを学習します。 ・等式の性質を学び、数量の間の関係を等式に表し方程式を解くことができるようにします。 ・身のまわりの具体的な問題を方程式を使って解くことを学習します。
	9		
	10	変化と対応 ・簡単な関数関係 ・比例 ・反比例 ・比例と反比例の利用 ・課題学習	小学校で学んだ比例に負の数の範囲まで拡張し、2つの関係を文字式を使って表すことを学習します。また、比例と逆になる関係の反比例を学習します。 ・比例や反比例を文字式で表し、グラフに表すことができるようにします。 ・座標平面、 x 軸、 y 軸、原点について学習します。 ・いろいろな事象から比例や反比例を活用できるようにします。
	11		
	12	平面図形 ・直線と図形 ・移動と作図 ・円とおうぎ形 ・課題学習	基本的な平面図形について種類や分類方法、作図の仕方等を学びます。 ・対称な図形の特徴について学び、分類の仕方について考えていきます。 ・図形で使用する記号や用語について学習します。 ・垂線、垂直二等分線、角の二等分線の作図を学習します。 ・平面図形を移動の観点から調べることができるようにする。
3 学 期	1	空間図形 ・立体と空間図形 ・立体の表面積と体積 ・課題学習	いろいろな空間図形の名称や特徴を学び、空間における直線や平面の位置関係と空間に対する見方や認識することができるようにします。 ・多面体の意味とその考察や種類や特徴について学習します。 ・平面や直線の位置関係、平面を移動させてできる立体の形や特徴について学習します。 ・立体の表面積と体積の求め方や考え方を学習します。
	2		
	3	データの活用 ・ヒストグラムと相対度数 ・データにもとづく確率 ・課題学習 1年間のまとめ	資料を目的に応じて収集し、それを表やグラフに整理し、資料の散らばりや代表値に着目して資料の傾向を読み取り、説明できるようにします。 ・度数分布表やヒストグラム、度数折れ線、相対度数、範囲や代表値などについて学習します。 ・資料の傾向を読み取り、説明できるようにします。 ・問題を解いたり、もう一度復習して、1年間の学習を振り返ります。

第1学年 理科 学習案内

教科の目標

◎中学校の理科では次のことを目標としています。

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

◎理科の内容

単 元	内 容
◎色々な生物と共通点 ◎身のまわりの物質 ◎光・音・力の現象 ◎大地の変化	・観察、実験を通して、植物のつくりとはたらきを理解する。 ・実験器具が正しく安全に使えるようにする。 ・観察、実験を通して規則性を理解し、日常生活と関連付けて科学的な見方や考え方ができるようにする。 ・身近な地形を大地の変化と関連付けて考えることができる。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識及び技能	・自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解 ・科学的探究についての基本的な理解 ・探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能	定期テストなどで知識・理解の程度を調べます。予習、復習にしっかり取り組みましょう。 観察・実験のレポートを提出してもらいます。きちんとまとめて締め切りを守りましょう。 ・実験への取り組み（発言、態度、技能等） ・実験プリント、ノート（グラフ等） ・定期テスト
思考力、判断力、表現力等	・自然事象の中に問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力 ・計画を立て、観察、実験する力 ・得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力 ・探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力	調べたこと（思考）、気づいたこと（判断）、わかったことは積極的に発表・まとめ（表現）をしましょう。 ・授業への取り組み（発言、態度、思考等） ・実験プリント、ノート（考察等） ・定期テスト ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	・自然を敬い、自然事象に進んでかわる態度 ・粘り強く挑戦する態度 ・日常生活との関連、科学することの面白さや有用性の気付き ・科学的根拠に基づき判断する態度 ・小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度	授業に積極的に参加しましょう。忘れ物に気をつけ、振り返りレポートやプリントで粘り強く取り組みましょう。 ・授業への取り組み（発言、態度等） ・提出物（ノート、授業プリント、ワーク、実験プリント等） ・振り返りレポート

第1学年 理科 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	◎ようこそ科学の世界へ ・理科室のきまりと応急処置 ・身近な生物を観察しよう	・校内や学校周辺に出て、植物のからだのつくりや生活場所を観察しよう。 ・ルーペの使い方やスケッチの仕方、顕微鏡の使い方を身につけよう。 ・花、葉、根、子葉のつくりを観察し植物を分類できるようにしよう。 ・背骨、体のつくり、仲間の増やし方を理解し、動物を分類できるようにしよう。
	5	◎色々な生物とその共通点 ・植物の特徴とその分類 ・動物の特徴とその分類	
	6		
2 学 期	7	◎身のまわりの物質 ・身のまわりの物質とその性質	・ガスバーナーを正しく安全に使えるようにしよう。 ・身のまわりの物質の性質を調べ、共通点と違いを見つけよう。 ・気体の実験から、その性質を理解しよう。 ・「溶ける」について理解しよう。 ・状態変化による変化と温度の関係について調べよう。 ・光の道筋を線で表そう。 ・光の反射、屈折、全反射の規則性を理解しよう。 ・音の大小と高低、伝わり方と振動の関係を理解しよう。 ・力の単位：N（ニュートン）を知り、力を矢印で表そう。 ・力を矢印で表し、力のつり合いを理解しよう。
	8	・気体の性質	
	9	・水溶液の性質 ・物質の姿と状態変化	
	10	◎身のまわりの現象	
	11	・光の世界 ・音の世界	
	12	・力の世界	
3 学 期	1	◎大地の変化 ・身近な大地	・火山の種類を、マグマや火成岩の性質と関連付けて理解しよう。 ・地震の原因を地球内部の動きと関連付けて考え、大地の変化を理解しよう。 ・地層の重なり方を調べ、地層のでき方や堆積岩を調べよう。 ・地層の中の化石から大古のようすを考えよう。
	2	・火をふく大地 ・揺れる大地 ・地層から読みとる大地の変化	
	3		

第1学年 グローバル・スタディ科 学習案内

教科の目標

◎中学校のグローバル・スタディ科では次のことを目標としています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

◎グローバル・スタディ科第1学年のコミュニケーション能力のGOAL

- 相手（話し手、書き手）の伝えたいことを正しく理解したうえで、自分の考えや思いを伝えることができる。
- 日本や日本の文化に誇りを持ち、自分の言葉で発信することができる。

【学習のしかた】

- ① 授業を大切にしましょう。…説明に耳を傾け、理解を深めて、実際にやってみることが大切です。
- ② 真似してみる・演じてみる。…お手本を自分で再現することが言語習得の基本です。
- ③ 家庭学習の習慣を身につけましょう。…授業の内容を復習（確認）することで知識が定着します。
- ④ 課題は期限や範囲をよく確認しましょう。…自分の力を確認するための課題です。計画的に。

☆本校ではこれらの目標を次の「学習計画」「評価の観点・評価の方法」をもとに達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・小テスト ・スピーチ、プレゼンテーション ・インタビューテスト ・定期テスト など
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	・スピーチ、プレゼンテーション ・スピーキングテスト ・ワークシート ・定期テスト など
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・授業の取り組み ・振り返りシート ・インタビューテスト など

第1学年のコミュニケーション学習の到達目標 (CAN-DOリスト)				
聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
① 日常の身近な事柄などについての話を理解することができる。 ② アナウンスなどを聞いて、自分に必要な情報を聞き取ることができる。	① 日常生活で使われる簡単な文を理解することができる。 ② 自分の興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真等も参考にしながらあらすじや大切な部分を読み取ることができる。	① 家族、日課、趣味など身近なトピックについて、質問したり、質問に答えたりすることができる。 ② 買い物などの場面でやりとりをすることができる。	① 自分のことについて（名前、年齢、好みなど）伝えることができる。 ② 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように、話すことができる。	① 自分のことについて、基本的な情報を書くことができる。 ② 友達や家族を紹介するなど、身近なことをまとめよく書くことができる。 ③ 自分の趣味や好き嫌いなどについて、理由を添えて書くことができる。

学習計画

学期	月	単元名 ○数字は Program 番号 ☆は主に ALT との授業テーマ	学習の内容・活動
1 学 期	4	Get Ready 小学校で学んだことを確認しよう	○ like / can / want to ~ / when, where の疑問文など
	5	①友だちを作ろう ②1-Bの生徒たち	○ be 動詞（肯定・否定・疑問） ○ where の疑問文 ○一般動詞（肯定・否定・疑問） ○複数形 ○when の疑問文
	6	③タレントショーを開こう ☆あなたの知らない私（自己紹介）	○ can（肯定・否定・疑問） ○whatの疑問文
	7	④Let's Enjoy Japanese Food	○This is ~. That is ~.（肯定・否定・疑問） ○代名詞 ○whoの疑問文
2 学 期	8	⑤Pajama Party	○三人称・単数・現在（肯定・否定・疑問）
	9		
	10	⑥The Way to School	○ him, her ○whyの疑問文, Because ~.
	11	⑦Research on Australia ☆この人知っていますか（他者紹介）	○There is [are] ~. ○howの疑問文
3 学 期	12	⑧Happy New Year	○現在進行形（肯定・否定・疑問）
	1	⑨A Trip to Finland	○一般動詞の過去形（肯定・疑問・否定）
	2	⑩Grandma Baba's Warming Ideas!	○be動詞の過去形 / 過去進行形（肯定・疑問・否定）
	3	☆私が選んだ1枚（Picture Description）	

第1学年 音楽科 学習案内

◎中学校の音楽科では次のことを目標としています。

- ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽分野と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指します。

◎中学1年生の音楽科では…

表現・鑑賞
・曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにします。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにします。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていける態度を養います。

☆本校ではこれらの目標を次の「学習計画」「評価の観点・評価の方法」をもとに達成を目指します。

白幡中の音楽科はこんな授業です！

◎混声合唱を目指し、さまざまな歌を楽しく歌っていきます。

◎DVD、CDなどを活用し、音楽鑑賞を楽しんで学習していきます。

◎アルトリコーダーの演奏にも取り組みます。

◎合唱祭への取り組みでは、クラスみんなで協力しながら練習し、合唱を作り上げていきます。

◎授業持ち物

- ・教科書(2冊) ・アルトリコーダー ・合唱曲集
- ・ファイル(各種プリント保存用) ・筆記用具

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けられている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができている。	・創作発表 ・実技テスト ・授業中の活動 ・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことができている。	・授業への取り組み(持ち物等) ・授業中の姿勢、発言 ・学習記録カード、各種提出物(ワークシート等)

第1学年 音楽科 学習計画

期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	さあ、歌おう！ ・歌	・歌う姿勢、口の形、呼吸の仕方など基礎的な技能を学びながら楽しく歌う。 ・歌詞の内容、曲想を感じ取り言葉のリズムや旋律を意識して表現を工夫しながら歌う。
	5	「校歌」 「希望という名の花を」 など	
	6	アルトリコーダーとの 出会い ・アルトリコーダー 「喜びの歌」「オーラリー」 「メリーさんの羊」など イメージ豊かに鑑賞し よう ・音楽鑑賞 「春」	
	7	日本の歌曲に親しもう 「夏の思い出」 「赤とんぼ」	・日本で長く歌われている歌曲に親しむ。 ・歌詞の内容や、曲の背景との関わりを理解する。
2 学 期	9	混声合唱に親しもう ・合唱祭へ向けて	合唱祭の取り組み ・「パートリーダー」「指揮者」「伴奏者」を中心に進んでクラス合唱活動に自主的に取り組む。 ・良い歌声にするために、姿勢、呼吸（腹式呼吸）、発声に気を配りながら歌う。 ・合唱の美しいハーモニーを響かせる練習をみんなで協力して練習する。 ・合唱祭を目指し、並び方を工夫し、お互いのパートを聴きあいながら心を一つにして歌おう！ ・お互いの演奏を鑑賞しあうことで様々な合唱曲に触れ、良さを味わう。
	10	クラスで選んだ合唱曲の 取り組み ・学年合唱曲	
	11	場面ごとの 表現の変化を味わおう ・音楽鑑賞 「魔王」	
	12	いろいろな音楽に 親しもう ・音楽鑑賞 箏曲「六段の調」 八橋検校作曲 ・器楽 箏を演奏してみよう	・日本の伝統音楽の魅力を感じ取る。 ・楽器の音色や使われている音階、速さの変化などを聞き取れるように注意してさく。 ・音楽全体の成り立ちを感じ取り、和楽器（箏）の表現を味わう。 ・実際に箏に触れ、和楽器の音色を味わう。
3 学 期	1	・音楽鑑賞 「ケチャ」	・多様な音楽文化に触れ、それぞれの音楽のよさや美しさを味わう。
	2	「ホーミー」 など ・歌唱	
	3	「ふるさと」 など	
			・1年間のまとめとして、クラスで声を合わせ、響かせあう楽しさを味わう。

第1学年 美術科 学習案内

教科の目標

◎中学校の美術科では次のことを目標としています。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のように身につける。

- (1)対象や事象をとらえる造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すようにする。
- (2)自然の造形や美術作品などの造形的な美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3)楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

◎美術科の内容

表 現	鑑 賞
・感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことをもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 ・構成や装飾、伝える・使う目的や条件をもとに、わかりやすさ、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練る。 ・発想や構成したものをもとに、材料や用具の活かし方などを身につけ、制作の順序などを考えながら、見通しをもって、工夫して表す。	・美術作品などの造形的なよさや美しさ、または、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方、感じ方を広げること。 ・身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの美しさを感じ取り、生活を豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を広げること。 ・身近な地域、日本、諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考え、見方や感じ方を広げること。
共通事項「知識」 ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 ・造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などでとらえることを理解すること。	

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	用具の使い方が表現したい内容に応じて工夫できること。表現技法を作品に生かせること。	・用具を適切に扱えること。(鉛筆・絵具・筆・ナイフ等) ・それぞれの画材の表現技法を効果的に生かせる。 ・奥行きや立体感が表現できる。量感や質感を表現できる。 ・基本的な描画法の習得 ・用具の準備や後片付けの仕方が適切等。 ☆定期試験は行わない。作品そのものに、学んだ技法で表現できているか、プレゼンカードや振り返り・鑑賞プリントの内容が適切に表現できているかで評価する。
思考・判断・表現	課題の意図を理解すること。数多くアイデアスケッチをする、何度も書き直して構想を練ることなど。作業手順を理解し、計画的な制作の構想を練ることができる。技法を工夫して表現すること。	・課題を理解し、アイデアを出す。 ・発想する。 ・制作の構想をねる(作業手順を理解しているか) ・アイデアスケッチまたは下書きで表したいものを描く。 ・配色の構想を練る。 ・構図の工夫と形の観察力。 ・完成作品の構想が下書きでできる。 ・制作過程の構想ができる。 ☆「知識・技能」の☆参照。
主体的に学習に取り組む態度	制作や鑑賞を通して、美術的な関心や制作への集中力。工夫、試行錯誤を繰り返し、完成まで根気よく制作すること。必要な資料や用具の準備状況など。	・制作に必要な資料や用具の準備。特に作品のアイデア、下書きのための参考資料は自分で用意することができる。 ・制作中の集中度。課題への積極的な興味・関心度。 ・用具の準備、片づけ ・提出物の状況 ・観賞資料への関心

第1学年 美術科 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	・オリエンテーション ・教科書から学ぶ（鑑賞）	・美術を学習する意義を理解しよう。美術は何のためにあるのか、個人や社会の中で、どんな役に立っているのかを考えよう。 ・今後の授業の目標や美術室の使い方を理解しよう。
		・「色彩の基本・仕組み」 ・アクリル絵の具の基礎	・色から感じるイメージを膨らませよう。 ・色の基礎を学ぼう。色の三要素、無彩色、有彩色、色の三原色、配色、対比など、色彩の基礎を理解しよう。 ・アクリル絵の具の特徴や使い方を理解しよう。
	5	・「見つめると見えてくるもの」（鑑賞）	・作品を観るとき、わたしたちはどこを見るのか、作者、作品の意図とは何かを探ってみよう。
	6	・「文字っておもしろい」（デザイン）	・身近なところにあるデザインされた文字を鑑賞し、形や色彩から受ける印象やその違いについて考えよう。 ・文字の意味やイメージを基に、伝える相手や場面などから主題を生み出し、分かりやすさと形や色彩などとの調和を考えてデザインしよう。
	7		
2 学 期	8	・「だじゃレシピ」（立体）	・対象の特徴をとらえてリアルな形作りをしよう。 ・紙粘土の特性を生かしながら、つくりたいものに合った技法で制作しよう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、よさや工夫について話し合おう。
	9		
	10	・「こころの風景」（絵画）	・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合おう。 ・見慣れた情景の中で気になる場所やものを見つけ、感じ取った形や色彩の特徴や場所のイメージから主題を生み出そう。 ・主題を基に、構図などを考えるなどして構想を練ろう。 ・アクリル絵の具の特徴を生かして、意図に応じて工夫して表そう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合おう。
	11		
3 学 期	12	・「自然の美しさから生まれた」（鑑賞）	・自然の美しさを取り入れたデザインを鑑賞し、気づいたこと、感じたこと、考えたことを話し合おう。 ・自然界の美しさを生かした造形が、身近な暮らしをどのように彩っているかを探し、自然と共存してきた人類の美意識について考えて意見を述べ合おう。
	1	・アートカードゲーム（鑑賞）	・埼玉県立近代美術館のアートカードを使って、美術館所蔵の様々な作品に触れ、いろいろな作品の観方を知ろう。
		・「広がる模様の世界」（デザイン・工芸）	・目的や条件を基に、自然物や人工物などの形や色彩の特徴の美しさから主題を生み出そう。 ・スケッチなどにより形や色彩の特徴を捉え、単純化や強調をするなどして構成を考えよう。 ・効果を考えながら彩色しよう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合おう。
	2	・「広がる模様の世界」（デザイン・工芸）	・効果を考えながら彩色しよう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、表現の意図や工夫について話し合おう。
3 学 期	3	・みんなの作品展（鑑賞） ・振り返り	・今年度制作したすべての作品を、クラスの中で鑑賞しあおう。友だちの作品の素敵などところを見たり、友だちの制作の意図を聞いたり、学び合おう。

第1学年 保健体育科 学習案内

【教科の目標】

◎ 中学校の保健体育科では次のことを目標としています。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動を親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

〈体育分野〉

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

〈保健分野〉

- (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	・各種の運動の特性や技能の構造やルールを理解しているか評価します。 ・各種の運動技能が身に付いているか、体力が向上しているかを評価します。記録、技能の向上を見ます。	・授業への取り組み ・学習カード ・定期テスト ・技能テスト
思考・判断・表現	・自己の能力に適した課題を見つけ、それに対して工夫ができているか、体育的な考えをしているか、またそれを表現することができるかを評価します。	・学習カード ・授業への取り組み ・技能テスト
主体的に学習に取り組む態度	・学習に積極的に取り組むとともに、作戦などの話し合いに参加しようとしているか評価します。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりしてフェアなプレイを守ろうとしているか評価します。	・授業への取り組み ・学習カード

第1学年 保健体育科 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	・体育理論 ・集団行動	・集団行動を通して安全な授業を進めるための約束事を身に付ける。
	5	・新体力テスト ・体づくり運動	・各種目の体力テストを通し、自分の課題を見つけ克服する態度を身に付ける。
	6	・陸上競技Ⅰ (短距離走、リレー)	・自己の能力に適した課題を持ち、技能を高めたり記録の向上の喜びを味わう。
	7	・体育祭	・行事に向け、クラスで団結する。 ・生涯にわたり積極的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。
		・水泳 ・保健(健康と環境)	・各泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだりする。
2 学期	8	・体育理論 ・体づくり運動	・基本的な技能を身に付け、試合の運営ができるようにする。生涯にわたり積極的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。 ・伝統的な行動の仕方や基本動作、対人技能を身に付ける。
	9	・球技Ⅰ (ネット型・ベースボール型)	
	10	・長距離走	
	11	(種目選択) ・武道 (柔道、剣道)	
	12	・保健	
3 学期	1	・ダンス	・リズムに乗って仲間と自由に踊ることを楽しむ。 ・今できる技を楽しんだり、よりよくできるようにする。できない技の練習の仕方を工夫したり、仲間と協力し合う態度を身に付ける。 ・チームの課題や自己の能力に適した課題を見付け、攻防の作戦を立て勝敗を競い合う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。
	2	・器械運動 マット運動	
	3	・球技Ⅱ (ゴール型) ・保健	
通年		・保健	・「健康な生活と疾病予防」 ・「心身の機能の発達と心の健康」 ・「心肺蘇生法」
		・体育理論	・「運動やスポーツの多様性」

第1学年 技術・家庭＜技術分野＞ 学習案内

◎技術分野の学習目標

- ・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

◎技術分野の内容 _____部分が1年生で学習する内容

A. 材料と加工の技術

- (1)生活や産業の中で利用されている技術
- (2)材料と加工法
- (3)材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作

C. エネルギー変換の技術

- (1)エネルギー変換機器の仕組みと保守点検
- (2)エネルギー変換に関する技術を活用した製作品の設計・製作

B. 生物育成の技術

- (1)生物の生育環境と育成技術
- (2)生物育成に関する技術を利用した栽培

D. 情報の技術

- (1)情報通信ネットワークと情報モラル
- (2)デジタル作品の設計・製作
- (3)プログラムによる計測・制御

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

	評価の観点	評価の方法
知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・定期テスト ・作品 ・ワークシート、レポート
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・作品 ・定期テスト ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている	<u>作品・実技・提出物・レポート</u> ・作品 ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況

第1学年 技術・家庭科（技術分野） 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1学期	4	<ガイダンス> ・技術を見つけよう <材料と加工> ・ものづくりの視点と進め方 ・設計	・技術分野のねらいとどんな内容で構成されるか理解する。 ・身近な生活の中に技術がされていることに関心をもつ。 ・身の回りの製品にあるさまざまな視点や工夫について考える。 ・ものづくりの進め方について理解する。 ・製作品の機能や丈夫にする構造について考える。 ・製作品を図に表す方法を理解し、かき表すことができる。
	5		
	6		
	7		
2学期	8	・生活に役立つ作品を製作しよう ①製作の準備 ②けがき ③切断 ④切削 （検査・修正） ⑤組立て （検査・修正）	・効率よく作業を進めるための準備を考える。 ・木材の特徴を理解する。 ・けがきの役割を知り、正確にけがきができる。 ・のこぎりの構造やしくみを理解し、正確に切断ができる。 ・かんなのしくみを理解し、正確に切削ができる。 ・組立の手順と接合方法について理解し、工具を適切に使用して、正確に組立てができる。
	9		
	10		
	11		
	12		
3学期	1	⑥仕上げ ⑦製作のまとめ ・材料と加工に関する技術の評価・活用 <情報> ・情報モラル	・表面や角を仕上げる方法を理解し、工具を適切に選択して、正確に仕上げができる。 ・ものづくりの構想から完成までをふり返る。 ・技術の評価・活用の方法を考える。 ・情報を扱う際のモラルの必要性を理解し、情報の適切な利用について考える。 ・人権や個人情報の保護について理解し、情報の利用のしかたについて考える。
	2		
	3		

第1学年 技術・家庭＜家庭分野＞ 学習案内

教科の目標

◎中学校の技術・家庭「家庭分野」では次のことを目標としています。

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

◎家庭分野の内容 部分が1年生で学習する内容

A. 家族・家庭生活	B. 衣食住の生活
(1) 自分の成長と家族 (2) 幼児の生活と家族 <u>(3) 家族・家庭や地域との関わり</u> (4) 家族・家庭生活についての課題と実践	<u>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</u> <u>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</u> <u>(3) 日常食の調理と地域の食文化</u> (4) 衣服の選択と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 (6) 住居の機能と安全な住まい方 (7) 衣食住の生活についての課題と実践
	C. 消費生活・環境
	(1) 金銭の管理と購入 (2) 消費者の権利と責任 (3) 消費生活・環境についての課題と実践

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・定期テスト ・作品 ・ワークシート、レポート
思考、判断、表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・作品 ・定期テスト ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	<u>作品・実技・提出物・レポート</u> ・作品 ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況

第1学年 技術・家庭科（家庭分野） 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	自立をめざして学ぼう	日々の生活を過ごすために家庭で行われている仕事を考え、自分でできることや自立度をチェックします。
	5	家族・家庭と子どもの成長 - 自分の成長と家族 - わたしと家族・家庭と地域について	- 自分の成長を振り返り、家族や家庭生活とのかかわりについて考えます。 - 家庭と地域のかかわりについて学習します。
	6	食生活と自立	栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養の特徴を考えます。
	7	中学生の食生活と栄養	
2 学期	8	日常食の献立と食品の選び方	- 食品の栄養的特徴について知り、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立をたてられるようにします。 - 食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択ができるようにします。
	9		
	10	日常食の調理の基礎	- 簡単な日常食の調理ができるようにします。（魚・野菜） - 食品や調理器具の安全な扱い方と調理技能を身につけます。 - 地域の食材を生かした調理の工夫について学習します。 - 伝統的な食文化について学習します。
	11	- 食品の選択と保存 - 地域の食品と食文化	
	12		
3 学期	1	- 日常食の調理の基礎 - 地域の食品と食文化	- 簡単な日常食の調理ができるようにします。（肉・野菜） - 食品や調理器具の安全な扱い方と調理技能を身につけます。 - 地域の食材を生かした調理の工夫について学習します。 - 伝統的な食文化について学習します。
	2		
	3		